

令和6年度東京大学学校推薦型選抜

(法学部)

グループ・ディスカッション課題

注意事項

- (1) 審査員の合図があったら、この表紙を開いて課題文を読んでください。課題文を読む時間は10分です。
- (2) 10分後にまた審査員が合図をしますので、グループ・ディスカッションを開始してください。
- (3) ディスカッションの時間は80分です。指定された時刻までに議論を終結させてください。
- (4) 審査員は議論の進行に関与しません。決定のしかたや議論の進め方はみなさんで決めてください。
- (5) ディスカッション終了の時間までに、ディスカッションで到達した主要な結論をまとめてください。ただし、全員が同じ結論に到達する必要はありません。複数の結論を含んだまとめでも結構です。また、到達した結論について審査員にプレゼンテーションを行う必要はありません。
- (6) このグループ・ディスカッションはみなさんの論理的思考力、発想力、コミュニケーション能力、チームで作業する能力などを審査するためのものであり、思想・信条を評価の対象とするものではありません。
- (7) 課題冊子とメモ用紙はディスカッション終了時に回収します。課題冊子・メモ用紙への書き込みは審査の対象となりません。

2023年8月、大津市で「びわ湖大花火大会」が4年ぶりに開催されました。予想される混雑を防ぐため、実行委員会は無料観覧エリアを縮小して有料エリア（1名当たり観覧料金4500円～25000円）を拡大し、県外客に有料観覧以外の来場自粛を呼びかけたうえで、湖畔の道路沿い約2キロにわたって高さ4メートルの目隠しフェンスを設置する対策を取りました。

花火の観覧を巡っては、人出による交通の乱れや事故のリスク、騒音や放置されるゴミなどのオーバーツーリズムに類する問題が存在します。オーバーツーリズムを巡っては、有名な観光地では、混雑を防ぐために入域料を取る措置も検討されるようになってきています。観覧料徴収がこのような趣旨にとどまる場合、収入規模は問題とはなりません。しかし、時間を限って高額な花火を打ち上げるイベントである花火大会については予算の調達も課題となっており、観覧料を取ることは大会存続の意味もあると考えられます。

他方で、花火大会は沿革をたどれば江戸時代に庶民の慰撫のために始まったものであり、大きな花火大会でも、地域住民との関係構築を重視する地元企業が協賛金を出したり、自治体が開催費用の大半を負担したりする例があります。また、人手についても、現在でも地方自治体や町内会を中心とした財団や実行委員会が花火大会の指揮を執る例が多く、開催にあたっては商店街や地元ボランティアの協力を得ることも必要です。さらに、開催される場所も多くは公有地である河川敷などで、空という公共の空間で展開される娯楽として地元民に広く開放されるところに意義があるとも考えられます。普段自由にアクセスできる河岸や空を、花火が彩るときだけ囲って見えなくするような開催では、住民にとっての納得が得られず、一部の協賛企業の意向にも反するかもしれません。現に、びわ湖大花火大会をめぐることは、地元自治体の一部から大会の開催に対して反対をする決議文が寄せられたといえます。

以上を踏まえ、皆さんが大きな自治体花火大会の企画を依頼されたとします。自治体には花火大会の予算を増額する余地はほとんどなく、今までは有料観覧を行わずに、地元密着型企業に限らず様々な企業の協賛をも募って、費用を捻出してきましたが、物価高騰や人出の増大などで、花火大会の内容も出資者も変えずに花火大会を実行するのは困難な状況になっています。実行委員会のメンバー構成を含め、どのような形で開催方針について意見形成していくのがよいか、また現実にどのように大会を開催・運営するのがよいかについて、それぞれ論じてください。